

肝炎ウイルスの新たな感染防止 -残された課題・今後の対策-

研究代表者 四柳 宏 東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 教授

研究要旨

肝炎ウイルスの感染を集団レベルでコントロールするためには多面的なアプローチが必要である。本研究班の目標として(1)一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象とした e-learning system の構築、(2) HB ワクチンの接種状況・感染状況に関する調査、(3) 急性肝炎の発生状況に関する正確な状況把握の検討、を掲げた。

本年度は、(1) e-learning system を構築し、次年度に保育関係者、医療従事者を対象に試行する予定となっている (2) ①全国の医療施設における実態把握のためアンケート調査を開始した ②医療従事者に対する HB ワクチン接種後の HBV への感染状況、ワクチンの追加接種の効果を検証するシステムを構築した ③ HB ワクチン定期接種後の効果と導入後の新規感染を把握するための準備を行った (3) ① 2018 年度にアウトブレイクを起こした A 型肝炎の実態把握を行った ②ビッグデータを用いた C 型肝炎の家族内伝播の予備調査を行った など計画に従って研究を推進している。

A. 研究目的

肝炎対策基本法には“肝炎対策基本指針”が定められており、この中の一つに“肝炎に関する啓発及び知識の普及並びに肝炎患者等の人権の尊重に関する事項”が挙げられている。

本研究班は“肝炎に関する啓発及び知識の普及”を目標にしている。同時に肝炎対策基本指針の中に定められている“肝炎の予防のための施策に関する事項”に関する研究を行うことも目的にしている。

B. 研究方法

本研究班の目標として(1)一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象とした e-learning system の構築、(2) HB ワクチンの接種状況・感染状況に関する調査、(3) 急性肝炎の発生状況に関する正確な状況把握の検討、を掲げた。

C. 研究結果

(1) 一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象とした e-learning system の構築

・四柳宏研究代表者

e-learning に加えウイルス肝炎の感染経路に関する Q and A を他の研究班と共同で作成した。

・江口有一郎研究分担者

班員の協力のもと、「一般生活者」「老人施設関係者」に対するガイドラインについて、パワーポイントスライドおよび音声ガイドからなる動画コンテンツを作成し、次年度に調査を行う体制を整えた。

・八橋弘研究分担者

看護学生 670 名を含む病院職員 5330 名を対象としてウイルス肝炎の感染経路及び感染確率に関する理解度を明らかにする目的で実施した無記名アンケート調査の結果を解析し、感染経路の理解に関する問題点を明らかにした。

・森屋恭爾研究分担者

医療の場における肝炎ウイルス感染予防の事態を知るため、日本病院会に加盟している組織に対するアンケート調査を計画した。倫理審査を通過した後アンケートを実施した。

(2) HB ワクチンの接種状況・感染状況に関する調査

・細野覚代研究分担者

全国の病院において医療関係者を対象とした肝炎ウイルス検査データおよび HBV 感染予防状況のデータベース構築、サーバーへの登録の準備を進めた。

・田中靖人研究分担者

細野研究分担者と協力して医療関係者を対象とした肝炎ウイルス検査データおよび HBV 感染予防状況の実態調査を行い、データベースを構築する作業を行った。

B 型肝炎ワクチン（HB ワクチン）定期接種化以前に出生した小児の B 型肝炎感染疫学の調査として、エコチル調査・愛知ユニットセンターに登録された 8 歳学童期調査および 8 歳詳細調査の参加者を対象に HBV 感染の実態調査を行う準備を行った。

・高野智子研究分担者

保育現場におけるガイドライン（『保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン－ウイルス性肝炎の感染予防を中心に－』）の理解度及び感染対策の実際を検証するために、大阪市内の保育施設勤務者にアンケート調査を行った。

・酒井愛子研究分担者

小児における B 型肝炎ウイルスの感染実態および B 型肝炎ワクチン定期接種開始後のワクチン接種率・HBs 抗体獲得率・HBs 抗体持続期間を明らかにするため、病院受診者の残余検体を用いた多施設共同疫学調査の倫理申請を行った。

・森岡一朗研究分担者

酒井研究分担者と協力して筑波大学を主研究機関としたグループを結成し、2019 年度からの

本研究の遂行に向けて、日本大学医学部附属板橋病院および神戸こども初期急病センターの倫理委員会の承認を得て、研究体制を整えた。

・田中敏博研究協力者

静岡県における HB ワクチン接種後の HBs 抗体追跡調査（多施設共同研究）に必要な準備作業を行った。

(3) 急性肝炎の発生状況に関する正確な状況把握の検討

・相崎英樹研究分担者

本年流行した A 型急性肝炎に関して感染症サーベイランス事業の結果と定点医療施設の観察結果と比較した。さらに、A 型急性肝炎の米国における状況と対策を解析した。

・田倉智之研究分担者

医療ビッグデータを応用し、C 型肝炎を対象に抽出・連結を行い、予備調査を実施した。

D. 考察

本年度は初年度であり、(1)～(3)の研究グループにおいて研究を円滑に行うための準備作業を行った。以下に今後の課題を挙げる。

(1) e-learning に関しては参加者が e-learning を行うことでどのようなことを学んだかの評価が必要である。これに関しては八橋研究分担者・江口研究分担者にも協力して頂き、問題やアンケートによる評価を考えている。

(2) 成人の HB ワクチンに関してはワクチン無効例への対策、ブースター接種の必要性の有無が大きな問題である。研究期間の間にできるだけ多くのことを明らかにする必要がある。小児に関して定期接種の効果を明らかにするにはかなりのサンプル数が必要でその確保が課題である。

(3) B 型肝炎・C 型肝炎はともに 5 類の全数届出感染症であるが、届出率は低い。この検討により今後どの程度が報告されているか、地域差はどうであるかなどが明らかにされることが期待される。根本的な対策の立案は容易でないが、届出がきちんと行われるための提言のようなものを考えていくべきである。

E. 結論

ウイルス肝炎のコントロールのための研究を3つのプロジェクトを中心に展開する準備を行った。来年度以降実際の調査を行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

各研究者の稿参照のこと

H. 知的所有権の取得状況（予定を含む）

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし